

第1回明日香村小委員会における各委員からの指摘事項等

(資料9「明日香村小委員会報告(骨子)(案)」に沿った整理)

1. これまでの取組みの評価に関すること

- ① 5年前と比べて整備等が驚くほど目に見える形で進んでおり、徐々に良い状況が生まれつつある。
- ② スマートフォンアプリにより、非常に見やすく分かりやすい形が作られている。
- ③ 東京で行われたキトラ古墳壁画展は大変な盛況ぶりであり、国内外から多くの関心が寄せられている。
- ④ 観光に重要なコミュニケーションの仕掛けをどう作っていくかが大事。ガイドは人によって解説が多様なので、その楽しさからリピートする人がいる。
- ⑤ 15年前は7~8軒だった飲食店が40軒ほどに増えた。レベルがかなり高く、リピーター客がついていて、いつも混み合っている店がある。
- ⑥ 知事も村長も観光に力を入れていることで順風が吹いており、真夏や真冬でもここ数年で来訪客は着実に増えている。
- ⑦ 子供の教育支援策が奏功し、子育て世代が戻ってきている。
- ⑧ 檜原神宮に通じる道路の整備が進行中であり、2年ほどで2車線化される。

2. 当面取り組むべき施策のあり方に関すること

1) 歴史展示の推進に関すること

- ① 歴史文化遺産が地中に埋まっていて見えないためガイドが必要であるが、多くの来訪者は景観に満足して帰ってしまうのがとても勿体ない。地中の遺跡をもっと知らせる必要がある。
- ② 国庫を使って保存するからには、日本だけでなく世界の財産であることを、より広く理解してもらうことが必要。そのためには遺跡の一部を復元してスケール感などが分かるようにするとともに、ビジュアルで分かりやすく説明し、さらに村民が十分に誇りと認識を持たないといけない。

2) 歴史的風土の維持・向上に関すること

- ① 国営公園から出た途端に隣にある駐車場のひどい光景が目に入る。公園の敷地外であっても国と村が連携して景観を守ってほしい。

3) 観光・交流の振興に関すること

- ① レンタサイクルは自由に乗り捨てができて、情報を得ながら周れるシステムにはなっていない。また、自転車道と歩道が十分に整備されていないので、非常に危険な場面がある。歩行者・自転車・車それぞれが互いに文句を言っていて、楽しく巡るような仕掛けになっていない。
- ② 中心部の周遊は4kmほどで距離的には良いが、途中でステーションがないので、暑い日は日陰がなく、雨の日は雨宿りの場所が十分とは言えない。

- ③住民になったような気持ちで、暮らすように旅をするための設えやもてなしの対応は不十分である。

4) 住みたくなる村づくりに関すること

- ①人口減少の問題など、村の活性化の速度が遅い。2035年の人口推計では、14歳までの人口が現在から3分の1くらいに減る。整備が進み条件が恵まれているにも関わらず、人口が減る原因が何なのか考えないといけない。
- ②小中学生に対する地域学が誇りを育て、観光客に対してガイド経験を積むことで人間関係調整能力を養っている。そうして将来的には村に帰ってきてもらうという長期的な視点がある。
- ③小中学生が万葉集や明日香に関する歴史を英語で説明できるようになれば、様々な場所で外交官として活動することができる。

5) 当面の支援のあり方に関すること

- ①国・県・村そして住民の協力によって、明日香村整備計画や整備基金などによる歴史的風土の保存と住民生活の調和を図るための措置が講じられるよう尽力する。

3. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性に関すること

1) 守られるべき明日香村の歴史的風土に関すること

- ①明日香村特別措置法にある「特別」の意味が何か、再度掘り下げて考える必要がある。守るべきもの、変えるべきもの、整備を進めるものを再度整理しながら前進していかなければならない。

2) 明日香村の価値の捉え方に関すること

- ①国家形成の地であること以外に世界でどのような普遍的価値を有するかが世界遺産登録の大きな課題であり、ユネスコメンバーの理解が得られていない。日本人のアイデンティティとしての特別な地であるという認識を深めるとともに、外国人の目線で明日香村の価値を明らかにする作業が必要ではないか。
- ②四季と共生する生活と歴史資産が共存していることに価値がある。そこに世界との交流の文化を加味して主張していかないといけない。
- ③FAO（国際連合食糧農業機関）の世界農業遺産は、脈々と受け継がれてきた農業のシステムに着目した認定遺産である。建国の歴史を持った農業のシステムとしてひも解くと、新たな価値として認識できるのではないか。

3) 地域住民及び国民の理解協力・積極的な関与に関すること

- ①村民が村の保全や発展に対して誇りを持つことは非常に重要。若者の村づくりへの住民参加が誇りを醸成する段階まで行き着いていないのではないか。
- ②村民の明日香法に対する規制感や観光に対する拒否反応はいまだに払拭されていない。世界遺産に対しても盛り上がり欠ける。これまで手厚い保護を受けてきたために、村民が担い手となって前面にくる部分が少ない。

4) 歴史的文化的遺産の保存と活用に関すること

①壁画の修復などの技術を学ぶ専門学校のようなものを誘致できるといい。

5) 地域産業振興による地域活力の向上に関すること

①住民は来訪者に褒めてもらうことが何よりの力になる。観光は重要な産業であると同時に、村民を育てるための装置としても非常に大事ではないか。

②遠い、変わらない、見るもの・買うもの・食べるものがない、夏と冬は厳しいというマイナスキャンペーンを払拭しないといけない。また、周辺市町村と広域的な観光システムを考えていかなければならない。

③奈良や飛鳥のものは東京で大変な人気がある。しかし、それが来訪に結び付いていないのではないか。あるいはもっと大勢に知ってもらう作業が足りないのではないか。遠方の人たちが関わることができる仕組みがあるといい。

④かめバスはデザインが悪い。乗ってみたいくなるデザインや、特徴的なガイドなどの仕掛けがほしい。それに加えてバーチャル体験のような深い観光につながる仕掛けがあると、明日香の観光がもう少しよくなる。

⑤観光に対して庁内体制を整えつつ、外部の専門家との連携を図りながら取り組みを強化していくことが大事。

6) 歴史的風土を支える担い手の育成と確保に関すること

①「京」や「宮廷」があったことは海外に向けた発信にも利用できる。明日香に暮らさないと享受できないもの、明日香であるからこそアピールできる価値を外部に対して発信すべき。

②観光と農業だけでなく新しいターゲットや人を入れることで、IターンやUターンを呼び込める。そのとき、新しく住む人が集落のコミュニティに最初は属さなくても暮らすことができるといい。

③観光産業は外部環境に左右されるところがあるため不安定な部分がある。村全体をミュージアムにする考え方で進められているが、観光だけで生活をしていくことは難しいと思われる。

④団塊ジュニアの転出が多く、建物を建てにくいことと、地縁活動に対する負担感が要因に挙げられる。村外は規制もなく暮らしやすい環境があるが、家族は近隣都市に住んでいて、すぐ会える関係にある。

⑤若者が転出するのは、将来に対する展望ができないからではないか。若者が明日香村で生活する基盤をどう作るかが課題。外部からの転入や村外者の活動参加も1つだが、地元で育った人が住み続けてもらうのが一番である。

7) 歴史的風土と調和した生活環境基盤の整備に関すること

①サイクリングロードは村外とのつながりが悪い。整備を進めると、歴史や文化だけでなくスポーツに興味がある人も入ってくるようになる。